



號併合◎量量第・日六廿月七 輯編局報情

# 週報 眞寫

札立の時

國內は「五ヶ條」  
民衆の担はく「神代書」





# サイパン島戦闘経過

## 在留邦人 將兵と運命を共にす

海軍少将 辻村武



海軍少将 辻村武



海軍少将 辻村武



海軍少将 辻村武

サイパン島における戦闘経過は次の如きものである。六月下旬、敵の有力機動部隊がマリアナ群島東方に出現、サイパン島は十一日敵機艦艇百九十機の攻撃を受けたのを皮切りに、十二日延二百機十機の来襲、十四日同島西海岸オレアイ飛行場附近に敵機の猛襲を受けた。上陸地帯附近に現れた敵の兵力は、航空母艦十数隻、戦艦八隻、大砲艦隊艦七十隻内外を算する強力なものであった。二十五日未明、敵は猛烈

- 大本營發表（昭和十九年七月十八日）
- 一、サイパン島のおが部隊は七月七日早朝より全力を挙げて最後の攻撃を遂行。所在の敵を殲滅し、その一部はタボラチ山附近迄突進し勇戦力闘に多大の損害を蒙り十六日までに全員壯烈なる戦死を遂げたものと認む。同島の陸軍部隊指揮官は陸軍中將藤田義次、海軍部隊指揮官は海軍少将辻村武久にして、同方面の最高指揮官海軍中將南雲忠一、また同島に於て戦死せり。
  - 二、サイパン島の在留邦人は終始軍に協力し、凡そ戦ひ得る者は敢然戦闘に参加し、概ね將兵と運命を共にせるもの如し。

なる砲撃を開始、七時頃その機銃下に三百隻以上の舟艇を送り、一帯に同島西海岸オレアイ附近に向つて上陸を企圖したのである。わが部隊は直ちにこれを迎撃、再度に互りこれを撃退、甚大なる損害を蒙つたが、正午過ぎ敵の一部はススベ岬附近に地帯を占むるに有り、爾後運兵これを擴大していつた。わが部隊はこれに對し無類な敵の砲撃を冒して反撃を續行、夕刻までに肉薄攻撃により敵戦車のみでも十数隻を撃滅せしめ、わが航空部隊また敵戦艦二隻、巡洋艦二隻を撃沈し、巡洋艦二隻を撃滅せしめ

たが、陣上よりの砲撃と相俟つて、兵員を逐つた上陸用舟艇多数を撃沈したのであるが、量を持たぬは連日三上陸を執行し、その兵力は一箇師團に達するに至つた。

總て十六日には、おが艦隊により敵は漸く増歩を断つた。同日わが部隊は東方及び北方から攻撃を遂行し、その一部はススベ岬まで突進し、敵を南北に分断して陣地の隘路に閉れたが、十七日敵は更に再び敵の砲撃のために後退するのやむなきに至つたのである。

敵機の襲撃、砲撃による損害、砲撃等によつて、わが方の損害は漸次増加し、十九日頃よりカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

これに對し南太平洋方面の軍艦隊は北上し來り、十九、二十日マリアナ西方海面に於いて、敵機動部隊を殲滅することを遂げた。その状況については既に大本營において發表せられた通りである。かくて二十三、二十四日頃には、サイパン島水頭部も全く陥落せられた。もともと同島は本島にまはれる岩地帯が少く、かつたため、爾後給水にも困窮するに至つた。しかも一方に砲撃、砲撃を蒙つてくる敵の砲撃と相俟つて、日を逐つてますます窮乏となり、全島に亘つてその状況を見しうするに至つた。わが方は敵の本隊に對し、不屈不撓、奮闘を續け來たのであるが、損害も著しく増大し、しか

## 緊急なる戦局に臨みて

東條内閣總理大臣談

マリアナ群島においては、六月十一日以来、皇軍將兵の敢闘により、敵に大打撃を加へたるも、サイパン島は、遂に敵の掌中に陥り、憂鬱を構はし奉れることは只々恐懼に堪へない次第である。神州護持の大任の下、雄々しくも、南海の毒と飲つた忠烈なるわが將兵および同胞の英靈に對し、ここに深甚なる哀悼の誠を捧ぐるものである。

軍戦の大詔を拜してより、茲に二年有半、その間、皇軍將兵は、隨所に輝煌なる戦功を展開し、億の同胞、また克く、あらゆる困苦を克服して、それらの驍域において大東亞戦争の完遂に邁進して來たのであるが、敵米英、殊に米國の反攻は漸くその勢を加へ、彼等は遂に、マリアナ群島にまで突進し來つたのである。

正に、帝國は、曠古の重大局面に立つに至つたのである。しかして、今こそ、敵を撃滅して、勝を決するの絶好の機會

である。この秋に方皇國護持のため、我々の進むべき途は唯一つである。心中一片の妄念なく、眼中一介の死生なく、幾多の戦友ならびに同胞の鮮血によつて得たる戦訓を活かし、全力を舉げて、速かに敵を撃滅し、勝利を獲得するばかりである。かくして始めて大東亞戦争に護國の神とされる幾多の勇士に報いることもできるのである。

大東亞戦争の目的は宣戰の大詔に列挙として昭らかである。大東亞戦争は、帝國にとりては、興廢の岐れる戦ひであり、亞細亞解放の聖戦であるが、敵にとりては、大東亞を奴隷化し、世界を征服せんとする戦ひである。日本自衛と野望達成との争ひ、解放と侵略との闘争なのである。しかして今や、決戦の機は來れり。今こそ、大東亞諸民族とともに、歐洲の盟邦と相携へて、敵米英の不退なる反攻を徹底的に撃滅するの秋である。

眞の戦争はこれからである。億決死の覚悟を新たに、光輝ある三千年來傳統の國魂を凝集して、究極の勝利を獲得し、以て、聖靈を安んじ奉らんことを、ここに更めて、固く誓ふ次第である。

も常における陣地の隘路におよび、陣地より、軍艦はもろく大艦隊の行動も困難となつた。

二十五日夕の敵機はカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

二十六日夜にカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

二十六日夜にカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

二十六日夜にカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

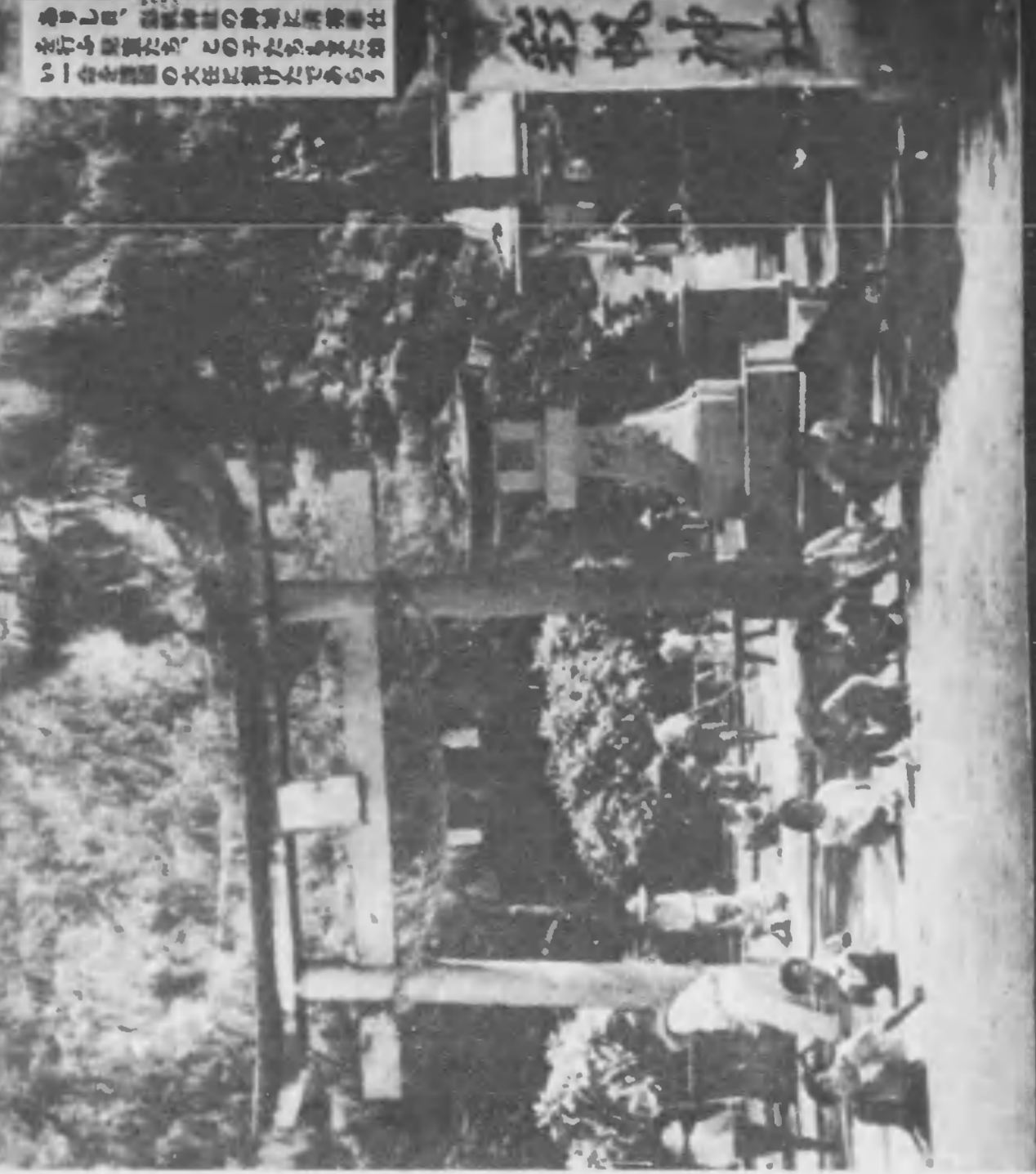
二十六日夜にカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

二十六日夜にカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

二十六日夜にカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

二十六日夜にカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

二十六日夜にカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。



名は傷兵、戦死した兵士と共に突入を遂げて自決を見るに至り、重要書類は悉く焼却し、五日夜最後の攻撃命令が下された。この命令に基づき六日夜に敵軍はサイパン島の戦況は、敵陣深く侵入し、敵司令部、砲兵隊、飛行機隊等をもろく殲滅せしめ、敵機動部隊は、翌七日未明より全力を挙げて、速く敵機動部隊をカラベン山頂タラコ中央の地に陣地を築するのやむなきに至り、オレアイ飛行場は二十日より敵の使用するところとなり、同日頃アスリート飛行場もまた敵手に落ちるに至つた。一方敵機艦隊の襲撃を避つてわが聯合艦隊の一部は突如行動を起した。

月十日までの損害、一万五千餘名と發表してゐる。勿論この数字は例により割引されてをり、その實際はさらに大きいものと思はれる。なほ最後の突撃隊にあり、現地指揮官より左の要旨の報告があつた。

陛下の股肱を失ひ、しかも克く任務を完らし得ざりしを謹みて御詫び申上ぐ。大津中隊の奮戦に比すべき皇軍の眞面目を發揮せるもの故、果に過あらず。將兵一同死慮を得たるを悦びあり。功績も仔細に申述ぶるを得ずして、一様に驚れゆく將兵並びにその遺族に對しお詫びの旨かなし。最後に、天皇陛下萬歳を高らかに唱へ、茲に皇國の必勝を確信し、英霊として悠久の大義に生きんとする將兵の聲を傳ふ」と

われらはいかに皇國の必勝を確信し英霊として悠久の大義に殉じた將兵の聲に聽へて、敵がさらに本土に迫らんか、皇軍傳統の精華を發揮し、必ずやこれを撃滅せんことを深く誓ふものである。

在留邦人に関しては、大本營より發表された如く、終戦軍に協力し、戦ひ得る者は敢然戦闘に参加し、將兵と運命を共にせられたことに対し衷心より感謝の意を表すると共に敵軍の滅を捧げる次第である。





# 頑張らう 一億決死の 覚悟で

心耳を澄まして、サイパン島に散華した將兵及び同胞の雄叫びを  
きかうではありませんか

幼い聲を張りあげて『天皇陛下萬歳』を三唱すると、國民學校の  
児童が、兵隊さんに抱かれて散つてゆきます。その最後の瞳に映つ  
たものは、萬古不易のわが國柄を象徴する淨らかな富士の姿であつ  
たでもありませうか。それとも萬葉と咲き匂ふ櫻の花でもありま  
せうか

また、もうすでに冷い赤子に頬ずりしながら、若い母親が叫ぶ  
『天皇陛下萬歳』が、かすかながらはずきり聞えてきます

しかも、これらの英魂は、今なほサイパンの島にしがみついて、  
滅敵の絶叫を繰返してゐるではありません

戦ひは、最後の最後まで頑張る者、踏みつけられようが、叩きつ  
けられようが『貴様らには絶対に負けないぞ』と確信する者、即ち  
相手が負けたといふまでは、決して戦ひをやめないぞといふ強烈な  
意志が、勝利を得るのです

サイパンの島を彩つた同胞の血の滴りには、死し  
てもなほ國體を護持せんとする火の如き信念と誓ひ  
が凝結してゐます。この信念と誓ひに双向ひ得るも  
のが、何處にありませうか

かう考えると、たとへサイパンの島は米兵の軍靴に踏みじられ  
ても、同胞はこの島に明らかに勝利の旗をうち樹てたのであります

燦として輝くこの旗の下、一億悉く死を決して、神州を護持する  
決意をさらに固めようではありませんか

☆ ☆

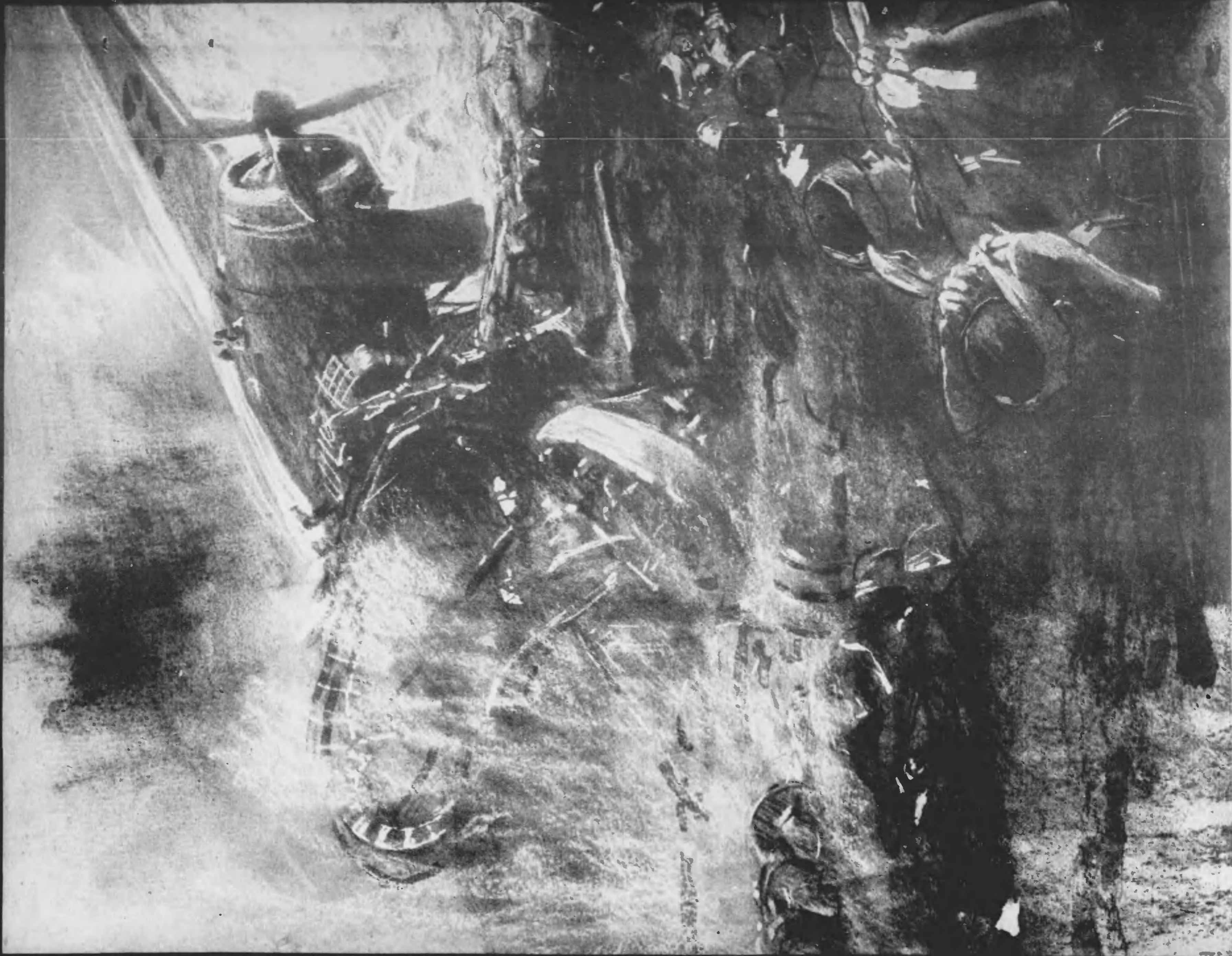
戦況を知るのに、もう地圖を見る必要がなくな  
りました。國內すなはち私どもの身の廻りが、既に戦  
場なのです。鎚を振り、鋏を握る、その手が直接敵  
をたぶすのです

私たちの血を捧げます。敵を撃つ生産に全生命を打込みます。小指から滴る紅の血が日本  
女性の決意を語つてゐる——血戦して必勝生産を誓ふ東京電機製作所の機務室職員









畫 郎 三 本 宮

あてとこついでれれみのを涙の鐵熱にかいはは々々人の下の撃爆砲きなき断間、あ  
つ勝ち打に虚脱す必ず必 ぶ背に明神に、こ億一 いならなはてめしらはをに駄無てじ断を死な高崇のこはれわれわ るあてい蓋く如





□ この新り、この怒り。さあ、全精力をあけて石壁を揺るのだ！ 常盤隊

# 先んず この仇は討つぞ

哭くもよし、眠るもよし、諍へるもよい。だが、真先にサイパン島の英靈に應へることを考へよう

かよわい婦女やいとけない幼児にまで鐵と爆彈の嵐を浴びせ、その血潮が流れてゐる上を踏んで進んだ敵、この憎い敵を撃ちのめすわれらの道はたゞ一つ、戰場に闘ふことだ

刃には刃を、物には物を以て報いよ。物量を持つ敵に、われらが

血の通つた物量を叩きつけよう

戰場を戰場とし、老いも若きも造るのだ。仕れても造るのだ  
飛行機を、兵器を！

□ 地下数百尺—敵機上層の坑内に耳を鋭くする砲臺の響き。全身は寒暄と汗にまみれ、決死のまなじり物づく、探偵戦士の取調は続く。この一觸が敵力の血を肉に、サイパン回廊を、女は、男は、必ず俺たちが討つてやるぞ







「我らは山の探検隊生です。未来を語るなか  
に、死ぬまで山で闘います」と頼もしい少年  
探検隊生たちの叫び。細らなく、細つ  
て細つて細くくんだ



少年戦士の響ひに呼應して、少女戦士も  
紅潮を帯びて闘々たる決意を示す  
「サイパンの騎兵や同様の敵艦に勝つて私  
ども全員が海軍に調子をいましてまう」

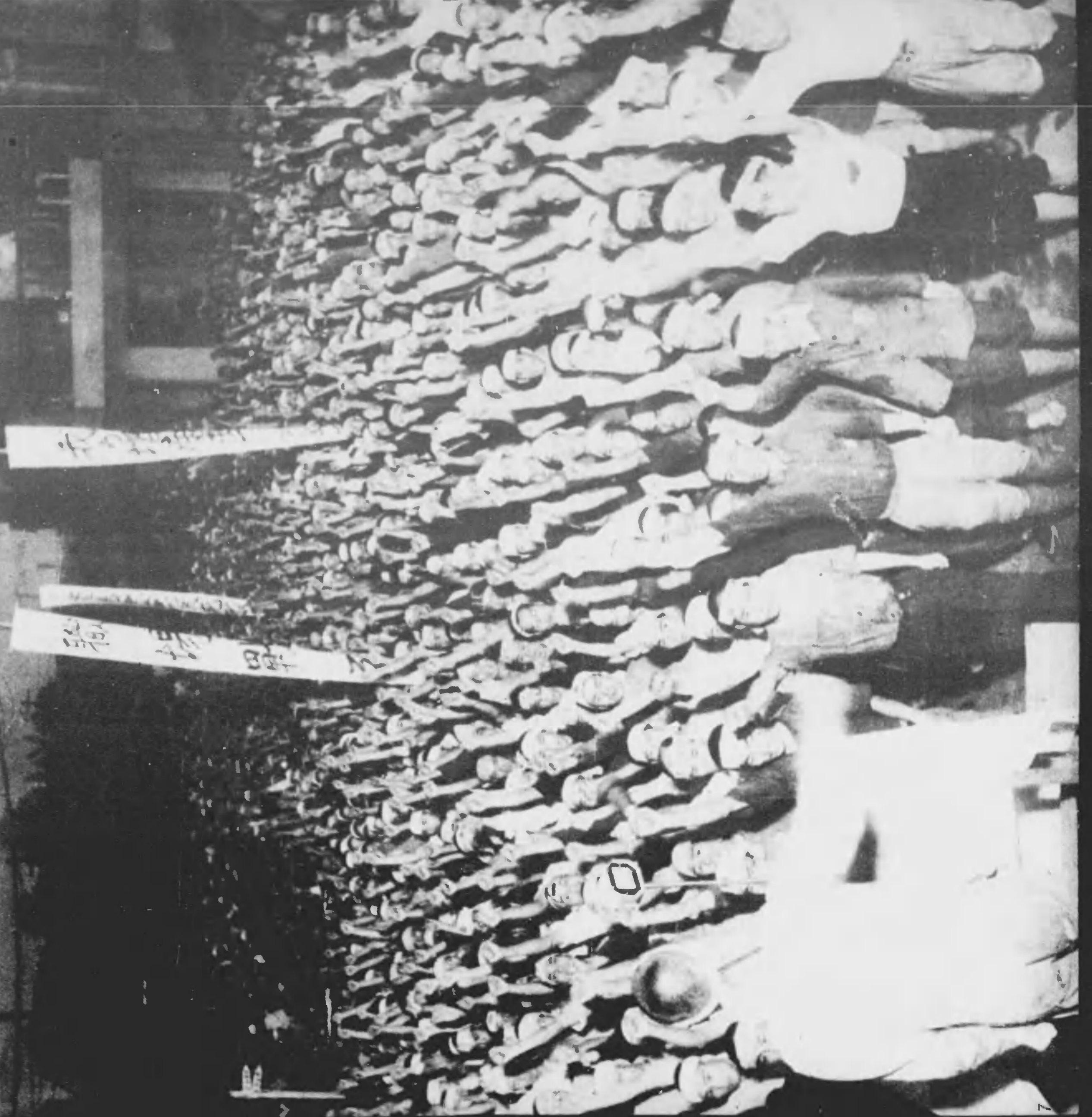


「敵軍の陣地はいまに迫つた。こゝに立つて  
將兵に忠告なきの覚悟を固め、我々  
産業界士何の願あつて皇土に生かされよう」

「闘場死だ」  
工員も挺身隊もない。あるは同じ憎しみに燃える同胞  
の叫びだ。増産隊が決戦の大和艦だ。海軍は作戦にて



サイパンを越へば闘一杯だ。勝つては  
もなく、かつと見ひらいたまなざしに  
は一徳の怒りが燃え上つてゐる。な、  
「誓ふ、死んでもやるぞ」





サイパン殉國の歌

作曲 大木恒夫  
作詞 山田耕筰

The musical score is arranged in two columns, each with a vocal line and a piano accompaniment line. The score includes various musical notations such as treble and bass clefs, time signatures, and dynamic markings like *p*, *mf*, *mp*, *pp*, and *rit.*. The lyrics are written in Japanese characters below the vocal lines.



サイパンの殉國の歌

泣け、怒れ 敵へよ、撃てよ  
 女、映えの 國の雲や  
 血に唄ふ サイパンの島  
 將兵を 死して護るま  
 主と併ね

泣け、怒れ 敵へよ、はあよ  
 同胞は 力竭せど  
 勇ましく かくぞ起りたり  
 表に燃え 國に叫びぬ

泣け、怒れ 敵へよ、はあよ  
 武器をとりて 起り得る者は  
 武器をとりて みな戦へり  
 後には 大和撫子  
 くれなゐに 咲きて匂ひぬ

泣け、怒れ 敵へよ、はあよ  
 代々受けし 忠武の血ちて  
 旗じるし 高く揚げたり  
 戦ひに 同じこころに  
 われら 精かむ

泣け、怒れ 敵へよ、撃てよ  
 皇國の 敵をいふとら  
 日のおひて 照る日の本ぞ  
 國を護らむ

國內戰場訓

★いつ敵が来るかではない、「いつでも来い」といふ覚悟と用意を今こそ固めておくときだ

前線も銃後もない。正に国土が戦場であり、億の一人一人が戦闘員である。この戦争では、国土防衛が重要な戦闘力であつて、萬一にも國民の防衛力が弱かつたならば、敵は往々どこか隅に乗つて日本をくみしやすすと野望を逞しうするのみだ

★防衛といふと非常に消極的に思はれるが、とんでもない思ひ違ひな。敵艦下にあつて爆弾が炸裂する、高射砲が砲る、目の前に死傷者が續出する、火の手は飛がるといふときに、敢然と防衛するには、よほど強い敢闘精神を持つてゐなければ、誰しも落着きを失ひやすいものである。それにはふだんから「何をなすべきか」をよく心掛け、訓練してあげば消ししたりせぬ。「訓練は實際の如く、實際は訓練のやうに」といはれた東郷元帥の言葉の真意もここににある

冷静沈着に事に處することは、敵襲後のやうに一時混乱したときには絶対に必要である。關東大震災には常識であつたれぬ話か傳はつたからしたときには流石が飛びやすいものである。殊に敵が本土に近接した今日では、敵がいつく國民を誘はすやうな手を打つてくることは當然考へておかねばならぬ。およそアは冷静に考へれば、そんな馬鹿なことがとまぐ止断を柄めるものである。自分、人、家族はもちろぬ組全員を落着かせるくらの自信を持たねばならぬ

★殊に當局の措置は絶対に信頼しなければならぬ。當局は平常から戦時を最も少く喰ひとめるために、研究し準備してをり、一番妥當な方針で國民に指示し指導する以上、これを信頼するのが國民の義務であり、國民としても安全な道である。當局の指導に女句をわけ、勝手なことをしようとするのは、國內を混濁させようとする敵の手先となるものだ

空襲後には非常通り圓滑に物資が配給されることがあつても、今から生活を「非常戦場」そのまゝの簡素なものに切りかへておけば、常に明るく戦ひぬけるのである。「不自由な生活と思へば不足なし」の気持ちで、原始的な生活に馴れれば、平常の物資の不足はもとより、どんなことが起つても驚くに當らない

戦場にふさはしく極度に簡素にした最低の生活のうち、一億をつに結ぶものは互に助け合ふ精神である。例へ一つの操り飯でも、餅ひ合つて食べるより分け合つて食へれば、腹はふとらなくても互になごやかな気持ちになり、勇気が湧いてくる

★元來、敵の空襲には、國民の士氣を剛喪させ、生産を低下させようといふ目的がある。前に述べたやうに、われらの戦意が旺盛であり生産力を確保してゐれば、敵襲は無駄作に終る。従つて、災禍にひるまず、再建に突進し、戦場を死守しなければならぬ。設備がやられれば、三交替三交替で、工場が今くやられれば他の同種工場へ移つて頑張り、また戦場を死守するのは工場勤務員だけでない。銀行も新聞社も、警防員も配給業者も、丸となつて戦場を守り通してこそ、工場も非常通り動く。つまり一億が「生産を落すな」とまつさきに考へ、焼夷弾、爆弾を始末したら、すぐ戦場につき、空襲時できなかった分を殘業で取戻す。これでこそ戦場が死守されるのだ